放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和　5年　12月　　20日

公表：令和　5年　　12月　22日　　　　　　　　　　　　事業所名　　ぐりーん

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			利用人数に応じて環境設定している	
	2	職員の配置数は適切である	75%		25%		必要な人数が場面によって異なるので今後も職員同士で声をかけながら対応していきます
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%				
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	50%	50%		設定しても予定通りにいかないことがある その日の振り返りをし、改善策を話し合うようにしている	話し合いで改善が出ても口頭であいまいになってしまうので明確にするために記録に残して全員が確認できるように取り組んでいきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	75%	25%			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	75%			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%				
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			必要なスタッフに確認しながらすすめている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			他の職員の知識も増えると良い 写真やイラストのカードを使ったり実物表示している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	75%	25%		話し合いを行なっているが、話し合いができないときや充分ではなくて個人で行うことがある	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	75%	25%		活動内容の固定化が一部ある 職員同士意見出し合ったり、季節のものを取り入れたり工夫している。	毎月活動内容を確認しているが、日によっては固定化した方がいい所と変更するところとを混ぜながら取り組んでいきます
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	50%		設定が足りない時もある	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	75%	25%		打ち合わせの時間を決めて実施している。 各自の役割の確認をしている スタッフが全員いない時なども共有できるように確認はしているが、できていない時もある	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	25%	75%		できている日とできない日がある 必ず毎日振り返りができている状況ではないため改善が必要な点。 勤務時間により全員ではできていないが共有するべきことは次の日に確認ができるとよい	振り返りの日を決めて行う、不在の日とは記録を確認して次回の改善点などが分かるようにとりくんでいきます
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			改善策をや次回行うことを記録している	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	100%				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75%	25%		必要なスタッフにお願いしている	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	75%		25%	学校の予定が把握しきれておらず、時間の変更に対処できていない時がある	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		50%	50%	主治医と定期的な連絡は行なっていない	病院に行った際の内容や変更点は保護者から聞いている。直接医師との連携は頻繁には難しいが保護者を介しながら連絡をとれるようにしていく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	66.70%	33.30%			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		25%	75%	法人内に学童はあるが交流する機会はない	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	25%	50%	25%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			自力通所の方には電話連絡等で情報共有している 送り迎えの際に、状況や様子を伝えている 必要があれば、時間を取っている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	75%	25%			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	75%	25%		職員間で共有し行っている。 保護者からの相談にはのり他スタッフと共有して対応する場合もある	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	25%		75%	コロナ以降行っていない	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75%	25%			
	35	個人情報に十分注意している	100%				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	25%	50%	コロナ以降行っていない	今後地域の方などを招待したイベントが出来るように考えていく
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	75%	25%		保護者への周知が少ないと思う 定期的に避難訓練を行っている	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			毎年研修を受けている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	25%	50%	25%	保護者からアレルギーは聞いているが医師からの指示書はもらっていない 保護者には確認しているが医師との直接的なやりとりはない 職員が把握するようにしている	アレルギーの有無などは記入してもらっているが、食物以外のアレルギー（花粉や寒暖差等）なども分かるように、一覧を作成していく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			記録を共有している	